

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100154
法人名	有限会社 弘祐会
事業所名	グループホームこうゆう庵
所在地	愛媛県西条市丹原町寺尾甲31番地9
自己評価作成日	平成23年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由に地域の中で…」を理念にも掲げているように、施設と地域の交流に力をいれている。毎年実施している施設の大きな行事の「夕涼み会」は年を重ねるごとに地域に定着しており、地域の公民館だよりも掲載されるようになりご利用者をはじめ地域住民の方々も多く参加していただき、楽しみにされている。盆踊りや露店も、職員やご利用者様のご家族、地域の婦人会の皆様にお手伝いを協力していただき、地域の道前太鼓様の演奏を取り入れて、毎年多くの方が来られ地域の交流の場、施設の日頃の感謝を表す場となっている。4月に地域の町民運動会や9月には地域の小・中学校合同の運動会もあり、施設専用でテントを建てる場所を設けていただき参加できるよう配慮していただいております。10月の地方祭にはお御興やだんじりが施設に立ち寄り、施設側もお接待することで施設にもぎわいご利用者も大いに喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「自由に地域の中で」を実践しており、年数を重ねるごとに地域との関わりが濃くなり、交流が活発に行われている。管理者が職員と積極的にコミュニケーションをとり、良好な関係を築くよう努めている。そのため、職員同志の仲が良く、若い職員がのびのびと日々のケアに取り組んでいる。利用者のおよつとした言葉や仕事を介護記録に残し、ケアの向上に活かしている。利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い尊重しており、利用者との信頼関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

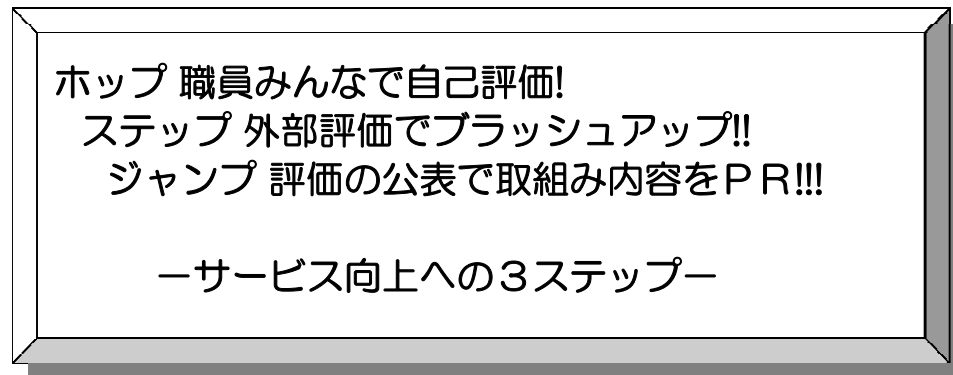
#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。



事業所名	グループホームこうゆう庵
(ユニット名)	ユニット I
記入者(管理者)	
氏名	天崎るみ
評価完了日	平成 23 年 11 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自由に地域の中で」を理念に揚げ、ことあるごとにカンファレンスを行い、理念を意識した話し合いを行い、提供できるよう都度確認し、共有し、日々実践につなげていくよう心がけ努めている。</p> <p>(外部評価) 理念は全職員で検討して作成し、理解を深めながら実践している。地域の中で暮らし続けることを軸に、ゆったりとした時間の中で利用者が生活できるような支援を心掛けている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の一員として、地域や小中学校の運動会（施設専用にテントを建てる場所を設けていただいている）、お祭り、文化祭、（ご利用者の作品展示）盆踊り大会、児童生徒をまもり育てる会など地域行事に積極的に参加し、施設での行事にもご利用者の日常生活に組み入れ、交流に努めている。</p> <p>(外部評価) 理念には「自由に地域の中で」と掲げ、地域に開かれた事業所を目標に取り組んでいる。一人ひとりの状態に合わせて外出を検討し、気分転換をはかっている。事業所が行う「夕涼み会」には、地域の小学校のPTAに出店してもらうなど協力を得ている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人々との交流の中で、施設での役割、認知症の方の施設という認識を伝えていくと共に、施設の利用開放などを行っている。地域の清掃活動にもご利用者と参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 定期的に、運営推進会議を開催し、その都度テーマを設定し、地域の区長（自主防災組織のメンバー）、民生児童委員、消防団、婦人会、公民館長、主事、近隣住民のメンバーと、話し合いをしている。行事の計画・反省なども行ない避難訓練、救急法などにも参加していただいたりと、地域の協力体制の確立にもなっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、事業所の行事の報告や様々な意見交換が行われている。各分野の専門家による勉強会や指導なども行い、サービス向上に向けた取組みがされている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) ご利用者やご家族等に関わる問題などを中心に、市町村担当者に相談し、助言を頂いたり、面談などにも立ち会っていただくなど協力関係を構築している。また、月に一度、介護相談員の方がこられ、ご利用者様の状態をお伝えしたり、また、アドバイスをいただいたりしている。</p> <p>(外部評価) より良いサービスや運営のあり方を模索する中で出た疑問点等を、市高齢介護課に相談している。また、市高齢介護課からも定期的に連絡があり、良好な関係が構築されている。行事にも積極的に参加してもらっている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束に関する禁止事項などを具体的に挙げることにより、ミーティングなどで事例を通して情報を共有し、夜間の玄関の施錠についても取り決めを行ない、統一した対応に努めている。</p> <p>(外部評価) 安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。身体拘束をしないケアについて全職員で確認し、ケアに活かしている。マニュアルも作成している。玄関の施錠は、夜7時から朝8時までとしている。</p>	経験の浅い職員も多いため、マニュアルの周知を徹底し、研修会等を通じて「身体拘束しないケア」についての知識や技術をさらに深めるていくよう、今後の取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内はもちろん、ご利用者についての虐待が見過ごされることがないように、言葉遣いにも配慮し、ご利用者を尊重したケアに努め、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 具体的に権利擁護に関する勉強会などは実施できていないが、パンフレットなどを用意し、ご利用者やご家族から相談があった場合は専門機関につなげられるような体制をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前の事前面接からの説明をはじめ、入所時には管理者・計画作成担当者・ユニット介護主任から直接契約について説明し、疑問点などを再度お聞きするなどして、契約書に署名捺印いただいている。契約後も面会時などにお声をかけるなどの配慮もおこなっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などにご家族にご意見をお聞きし、必要な場合は会議などで介護職員にも報告し、情報の共有に努めている。ご利用者に関しては、介護計画作成時にご要望をお聞きし、介護計画に反映させている。  (外部評価) 利用者の家族の来訪時には状況を伝え、要望などを聞き取っている。遠方に住んでいる家族に対しては、月1回送付する日常生活報告書により、利用者の状況を把握してもらった上で意見を出してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は諸会議・申し送りにも参加しており、日常的に職員と話す機会を作り、意見を聞く機会を持っている。職員一人ひとりとのコミュニケーションを大切に、職員の介護の質を高めるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 職員には事業所を全員で良くしていこうという思いがあり、気軽に意見が出しやすい関係が構築されている。管理者は職員の声に耳を傾け、良い気づきやアイデアを活かし積極的に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 管理者は職員の個々の生活状況を理解し、生活状況をふまえ、労働時間、給与など、各自が続けて働ける環境、条件・整備等ご利用者の生活にも支障がないよう多方面に配慮している。また、資格取得には、全面協力しており、取得の際には、給与についても配慮している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 管理者は職員一人ひとりのケアの実力と力量を把握し、個人の資格取得状況も合わせながら、研修案内・研修情報の回覧・表示し研修の調整を図っている。希望があれば自由に申し出て研修を受けられる環境を提供している。又、言い出しにくい職員には、参加の声をかけをし努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 居宅事業所のケアマネを中心に視察・見学等行い又研修などでの同業者との関わりを積極的に持つことで、新たなネットワーク作りや勉強会・研修会の情報交換などを行ない、ネットワークづくりなどを行っている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービス利用前には必ず面接を行ない、ご本人の希望や不安な点などをお聞きし、説明を丁寧に行うよう心がけている。日々の生活で些細な点も記録に残し、サービス利用後のケアに役立てている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前には必ず面接を行ない、ご家族の希望や不安な点などをお聞きし、説明を丁寧に行うよう心がけている。毎月面会に来て頂いたときにも、管理者よりお声をかけさせていただき、定期的にご意見をお聞きしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み段階での情報収集を密に行ない、担当のケアマネージャーとも情報交換をすることで、ご本人・ご家族だけでなくいろいろなサービス全体からご利用について検討している。医療機関の協力も必要な場合もあり、診断書や紹介状の手配なども助言させていただいている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で家事活動を中心に、生活の知恵を出していただいたり、季節の行事等を教えていただいたりと、それぞれ、役割を持っていただくことで、職員との一方的な関係ではなく和を共有する同士の関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に病院受診、外出、行事参加などの協力をお願いし、施設に全てを依存せず、施設とご家族が協力してご利用者様に一番良い環境作りを心がけ、ご利用者とご家族の関係を断ち切らないよう配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 在宅生活の延長で、地元の馴染みの人との交流、敬老会などの行事への参加や遠方からの面会者などには食事を一緒にしていただく、いきつけの美容院へ行かれるなどの馴染みの関係が途切れないよう支援している。  (外部評価) 職員は利用者の生活歴の把握に努めている。利用者や馴染みの方との関係が途切れないよう、家族に協力をお願いすることもある。以前勤めていた職員が事業所を訪れるなど、様々な方に積極的に関わりを持ってもらえるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が仲介となり、交流の機会を設け、いろいろな会話の中から、子供の頃の話や終戦時の話など井戸端会議のような形式をとり、会話は楽しいものと皆様が感じ、自然に関わり、「共に暮す」暮らしを意識しながら協力し合えるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、行事などのパンフレットを送付してお誘いしたり、関係機関の担当ケアマネを通じて情報をお聞きするなど経過の把握に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の介護記録には、ご本人が発言した言葉をそのまま記入し、それに対し職員がどう返答し、ご利用者がどう納得されたのかなど、何気ない日常会話の中に心の変化、体の変化をつかむ材料としている。 (外部評価) 買い物や入浴時等に、積極的に会話に努め利用者の思いや意向を把握している。思いや意向が伝えづらい利用者に対しては、積極的に側に寄り添い意思の疎通を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接や入所後のアセスメントを行ない、ご本人との面談や日常会話での情報収集、ご家族にはアンケート用紙を渡しアセスメント用紙まとめ、サービス利用に活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日課表や個人記録を詳しく記入することにより、毎日の現状を把握できるよう努めている。口頭で申し送りを行い、日誌の申し送り欄に特記している。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご利用者の状態の変化や職員が気づいた点など月初めに各ユニットでケアカンファレンスを行ない、話し合いで意見やアイデアを出し合う場を設けている。ご家族には面会時にご意見をいただいたり、必要時には面談などを行っている。  (外部評価) 利用者や家族の思いや支援の中での気づきなどを介護計画に盛り込み、職員間で話し合って作成している。3か月に1度見直しを行い、より良いサービスが提供できるよう取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一日ご利用者がされたことをただ単に記録するのではなく、ご利用者の言葉・会話なども含めながら「気づき」を記録するよう心がけている。出勤以外の記録にも必ず目を通すことで情報を共有しそれをよりよい介護につなげる努力をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 新しい情報を取り入れながら、柔軟な支援やサービスの多機能化「受診介助、買い物、外出等」に取り組み、その時々生まれるニーズに対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 大きな行事（夕涼み会・避難訓練・地域の文化祭など）に地域の方々の協力をいただき、グループホームを知らない方にも理解していただく機会を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医との連携を行ない、ご本人やご家族の希 望も取りいれ、ご家族にも受診協力していただきなが ら、ご本人がよりよい医療を継続して受けられるよう 支援している。必要時には施設からの情報提供や薬の 受けとり、受診協力も柔軟に対応している。</p> <p>(外部評価) 利用者それぞれにかかりつけ医がおり、それぞれの主 治医と連携が取れている。基本的に通院介助は家族が 行っているが、家族の都合がつかない時は職員が同行 している。受診結果については家族と共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員から日々の気づきや申し送りにて看護師への 相談もあり、医療機関へつなげるきっかけとなってい る。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) ご利用者が入院の際には、ご利用者の状態やご家族の 状態を伝え、情報提供書などをお渡ししている。日々 の受診の際にも病院関係者との情報交換なども行な い、関係作りに努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ご本人やご家族の希望を中心に、グループホーム施設 でのケアの限界と医療体制なども十分説明し、職員も 方針を共有しながらチームとしての思いをひとつに し、安心して取り組めるよう話し合い支援ができるよ うにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の家族には事業所のできることを、できないこと を十分に説明した上で支援を行っている。食事が摂取 できなくなった場合を一つの基準として、家族と協議 した上で医療機関等と連携をとるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを整備し、消防署の指導のもと、地域の方を交え、勉強会などを行い日々訓練している。今後も専門的な講習を受けるなどして、実践力を身につけていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回6月・11月に日勤・夜勤帯想定で防火訓練も実施している。地域の区長（自主防災組織のメンバー）・民生委員・婦人会・消防団の方、近隣住民にも参加していただき、地域との協力体制を確認している。運営推進会議などでも地域の防災マップなどをいただき、議題にあげて話し合っている。 (外部評価) 事業所が地域の避難場所になっており、地域との連携を意識した訓練を実施予定である。米・塩・水等の備蓄があり、簡易トイレについても準備がされている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう「言葉づかい」に気をつけ、コミュニケーションをとっている。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。 (外部評価) 利用者は人生の大先輩であるということを常に心がけ、声かけや接し方に配慮している。個人情報使用同意書を作成し、個人情報が適切に管理できるよう取り組んでいる。使用する際には十分な説明を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者に事前に声をかけ、ご希望をお聞きしたり、体調面に配慮したりし、手芸時の布えらびの際には、職員が決めず、ご利用者様の意思で選んでいただき、自己決定を尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や生活リズムを大切にしながら、ご利用者のペースに合わせて、声かけし、したいことがあれば取り入れ、認知症などで自己決定が難しい場合は職員の方で提案するなどし、日々ゆったりと過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 近隣の美容院・理髪店を利用したり、行きつけの美容院・理髪店があるご利用者は、一人ひとりに合わせた美容院を利用出来るように、その人その人に応じた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の能力に合わせて、負担にならないよう配慮しながら食事の準備や片付け、台拭きなど、職員と一緒に、手伝っていただき、お手伝いしていただいている。また、好みを聞き献立を一緒に考え、会話をしながら食事をしている。 (外部評価) 利用者の要望を聞きながら、献立をたてている。季節の食材を取り入れるなど、利用者が季節感を感じられるような工夫がされている。利用者の誕生日にはケーキを作る等楽しく食事ができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は一日を通じてバランスよく取れているか食事摂取量、水分摂取量は必ず記録に残し、水分量は、午前・午後・食事中・入浴後などできるだけ多く摂取できるように配慮している。また毎月、体重測定を行い病気予防に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員が見守りしながら、毎食後、フロアーの洗面所にて口腔ケアを実施している。きれいに磨けているかどうか、声かけしながら見守り、清潔を保っている。義歯は夜間ポリドントにつけ洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄は個人個人の精神面を配慮し、いつもトイレでの排泄を心がけて援助している。失敗した時には、自尊心を傷つけないよう声かけや対応を心がけ支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握した上でトイレ誘導や排泄ケアを行っている。夜間については、尿パッドを使用する等、利用者の状態や状況に応じてケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事（野菜類）や水分を十分に摂取していただけるよう心がけている。また、牛乳を購入し、ヨーグルトを作り、便秘解消になることは試してみている。体操や歩行訓練等も朝・夕行なっている。排便の確認がとりにくい面があり、時間的に長い場合はご本人にその都度確認している。ご本人の申告もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日曜日以外は毎日入浴している。ご利用者に相談しながら、行事などの都合により入浴時間が変更になる場合もあるが、お一人、お一人がゆったり気持ちよく入浴できるよう配慮している。ご本人の希望などもお聞きしている。	
			(外部評価) 2日に1回入浴を行っている。季節や利用者の状況に応じて、入浴回数を検討している。入浴の苦手な利用者については、家族に協力を依頼するなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や習慣などご利用者のリズムに合わせて各自自由に休める環境作りに努力している。ご利用者の中にも早く入眠される方もおり、体調に合わせて居室に誘導し休息を促せるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 病院からいただく処方箋はファイリングし、個人カルテには誰が見てもわかるように細かく記入している。変化がある時は申し送りを必ずしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴、能力に応じて負担にならないよう家事などの役割を担ってもらっている。テレビ・音楽鑑賞・手芸・工作・コーヒータイムを取り入れ、気分転換や充実した生活が送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者の希望に応じて買い物や近くの畑へ草引きや収穫と一緒に出掛けたり、地域行事や季節に合わせた外出もしている。家族との外出・外泊もできるよう柔軟に対応している。	
			(外部評価) 隣接するデイサービスに同行し、吉海町のばら祭りに行く等、機会を見つけて外出支援を行っている。さつま芋の収穫祭り際には、収穫後に利用者と調理し屋外で食事をして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者やご家族の希望を聞き認知症の状態により金銭を所持できる環境である。お金を持つことの大切さを職員が理解した上で個別に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやりとりは自由にできるよう支援しており、家族等からの電話を取り次いだり、居室に電話をひいているご利用者もおられる。また、誕生日や、何かの記念日にご家族よりお花や衣類を贈っていただいた時にはお礼の電話をしていただくよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 掲示板にご利用者が作った作品を季節感を出しながら掲示している。玄関を入るとトイレが一番に目に入る為、ご利用者、面会者が不快にならないようにカーテンをつけ見えないよに、常に清潔を保てるような環境になるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) フロアは高い天窓から日光が入り、明るく気持ちの良い空間となっている。キッチンからフロアが一望でき、利用者の状況を常に把握することができる。利用者の書道の作品を展示するなど工夫がされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 一人になりたいときや、面会などの際には居室に自由に行き来できるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 行事での写真や作品などを飾ったり、ご本人の好みで使いやすいように、レイアウトしている方もいらっしゃるしやり落ち着く空間づくりに努めている。また、ご家族が持ち来られたお孫様の写真も飾り、いつでも見れるようにしている。</p> <p>(外部評価) 洗面台やダンス、ベッドが備え付けられており利用者は自由に使用している。利用者の使い慣れたものを自由に持ち込み、居心地よく過ごしやすい空間づくりがされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ドアにご利用者のお名前や花の写真を表示してわかりやすくしている。食事のときの席も固定化しており、自分の場所を確立し、認知症によるトラブルの軽減に努めている。ユニット内の掲示板にはその日の担当を決められることは一緒に行っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100154
法人名	有限会社 弘祐会
事業所名	グループホームこうゆう庵
所在地	愛媛県西条市丹原町寺尾甲31番地9
自己評価作成日	平成23年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由に地域の中で…」を理念にも掲げているように、施設と地域の交流に力を入れている。毎年実施している施設の大きな行事の「夕涼み会」は年を重ねるごとに地域に定着しており、地域の公民館だよりも掲載されるようになりご利用者をはじめ地域住民の方々も多く参加していただき、楽しみにされている。盆踊りや露店も、職員やご利用者様のご家族、地域の婦人会の皆様にお手伝いを協力していただき、地域の道前太鼓様の演奏を取り入れて、毎年多くの方が来られ地域の交流の場、施設の日頃の感謝を表す場となっている。4月に地域の町民運動会や9月には地域の小・中学校合同の運動会もあり、施設専用でテントを建てる場所を設けていただき参加できるよう配慮していただいております。10月の地方祭にはお御興やだんじりが施設に立ち寄り、施設側もお接待することで施設もにぎわいご利用者も大いに喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「自由に地域の中で」を実践しており、年数を重ねるごとに地域との関わりが濃くなり、交流が活発に行われている。管理者が職員と積極的にコミュニケーションをとり、良好な関係を築くよう努めている。そのため、職員同志の仲が良く、若い職員がのびのびと日々のケアに取り組んでいる。利用者のおよつとした言葉や仕事を介護記録に残し、ケアの向上に活かしている。利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い尊重しており、利用者との信頼関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこうゆう庵

(ユニット名) ユニットII

記入者(管理者)  
氏名 天崎るみ

評価完了日 平成 23 年 11 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自由に地域の中で」を理念に揚げ、ことあるごとにカンファレンスを行い、理念を意識した話し合いを行い、提供できるよう都度確認し、共有し、日々実践につなげていくよう心がけ努めている。</p> <p>(外部評価) 理念は全職員で検討して作成し、理解を深めながら実践している。地域の中で暮らし続けることを軸に、ゆったりとした時間の中で利用者が生活できるような支援を心掛けている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の一員として、地域や小中学校の運動会（施設専用にテントを建てる場所を設けていただいている）、お祭り、文化祭、（ご利用者の作品展示）盆踊り大会、児童生徒をまもり育てる会など地域行事に積極的に参加し、施設での行事にもご利用者の日常生活に組み入れ、交流に努めている。</p> <p>(外部評価) 理念には「自由に地域の中で」と掲げ、地域に開かれた事業所を目標に取り組んでいる。一人ひとりの状態に合わせて外出を検討し、気分転換をはかっている。事業所が行う「夕涼み会」には、地域の小学校のPTAに出店してもらうなど協力を得ている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人々との交流の中で、施設での役割、認知症の方の施設という認識を伝えていくと共に、施設の利用開放などを行っている。地域の清掃活動にもご利用者と参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 定期的に、運営推進会議を開催し、その都度テーマを設定し、地域の区長（自主防災組織のメンバー）、民生児童委員、消防団、婦人会、公民館長、主事、近隣住民のメンバーと、話し合いをしている。行事の計画・反省なども行ない避難訓練、救急法などにも参加していただいたりと、地域の協力体制の確立にもなっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、事業所の行事の報告や様々な意見交換が行われている。各分野の専門家による勉強会や指導なども行い、サービス向上に向けた取組みがされている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) ご利用者やご家族等に関わる問題などを中心に、市町村担当者に相談し、助言を頂いたり、面談などにも立ち会っていただくなど協力関係を構築している。また、月に一度、介護相談員の方がこられ、ご利用者様の状態をお伝えしたり、また、アドバイスをいただいたりしている。</p> <p>(外部評価) より良いサービスや運営のあり方を模索する中で出た疑問点等を、市高齢介護課に相談している。また、市高齢介護課からも定期的に連絡があり、良好な関係が構築されている。行事にも積極的に参加してもらっている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束に関する禁止事項などを具体的に挙げることにより、ミーティングなどで事例を通して情報を共有し、夜間の玄関の施錠についても取り決めを行ない、統一した対応に努めている。</p> <p>(外部評価) 安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。身体拘束をしないケアについて全職員で確認し、ケアに活かしている。マニュアルも作成している。玄関の施錠は、夜7時から朝8時までとしている。</p>	経験の浅い職員も多いため、マニュアルの周知を徹底し、研修会等を通じて「身体拘束しないケア」についての知識や技術をさらに深めるていくよう、今後の取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内はもちろん、ご利用者についての虐待が見過ごされることがないように、言葉遣いにも配慮し、ご利用者を尊重したケアに努め、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 具体的に権利擁護に関する勉強会などは実施できていないが、パンフレットなどを用意し、ご利用者やご家族から相談があった場合は専門機関につなげられるような体制をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前の事前面接からの説明をはじめ、入所時には管理者・計画作成担当者・ユニット介護主任から直接契約について説明し、疑問点などを再度お聞きするなどして、契約書に署名捺印いただいている。契約後も面会時などにお声をかけるなどの配慮もおこなっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などにご家族にご意見をお聞きし、必要な場合は会議などで介護職員にも報告し、情報の共有に努めている。ご利用者に関しては、介護計画作成時にご要望をお聞きし、介護計画に反映させている。  (外部評価) 利用者の家族の来訪時には状況を伝え、要望などを聞き取っている。遠方に住んでいる家族に対しては、月1回送付する日常生活報告書により、利用者の状況を把握してもらった上で意見を出してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は諸会議・申し送りにも参加しており、日常的に職員と話す機会を作り、意見を聞く機会を持っている。職員一人ひとりとのコミュニケーションを大切に、職員の介護の質を高めるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 職員には事業所を全員で良くしていこうという思いがあり、気軽に意見が出しやすい関係が構築されている。管理者は職員の声に耳を傾け、良い気づきやアイデアを活かし積極的に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 管理者は職員の個々の生活状況を理解し、生活状況をふまえ、労働時間、給与など、各自が続けて働ける環境、条件・整備等ご利用者の生活にも支障がないよう多方面に配慮している。また、資格取得には、全面協力しており、取得の際には、給与についても配慮していただいている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 管理者は職員一人ひとりのケアの実力と力量を把握し、個人の資格取得状況も合わせながら、研修案内・研修情報の回覧・表示し研修の調整を図っている。希望があれば自由に申し出て研修を受けられる環境を提供している。又、言い出しにくい職員には、参加の声をかけをし努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 居宅事業所のケアマネを中心に視察・見学等行い又研修などでの同業者との関わりを積極的に持つことで、新たなネットワーク作りや勉強会・研修会の情報交換などを行ない、ネットワークづくりなどを行っている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービス利用前には必ず面接を行ない、ご本人の希望や不安な点などをお聞きし、説明を丁寧に行うよう心がけている。日々の生活で些細な点も記録に残し、サービス利用後のケアに役立てている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前には必ず面接を行ない、ご家族の希望や不安な点などをお聞きし、説明を丁寧に行うよう心がけている。毎月面会に来て頂いたときにも、管理者よりお声をかけさせていただき、定期的にご意見をお聞きしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込み段階での情報収集を密に行ない、担当のケアマネージャーとも情報交換をすることで、ご本人・ご家族だけでなくいろいろなサービス全体からご利用について検討している。医療機関の協力も必要な場合もあり、診断書や紹介状の手配なども助言させていただいている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で家事活動を中心に、生活の知恵を出していただいたり、季節の行事等を教えていただいたりと、それぞれ、役割を持っていただくことで、職員との一方的な関係ではなく和を共有する同士の関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に病院受診、外出、行事参加などの協力をお願いし、施設に全てを依存せず、施設とご家族が協力してご利用者様に一番良い環境作りを心がけ、ご利用者とご家族の関係を断ち切らないよう配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 在宅生活の延長で、地元の馴染みの人との交流、敬老会などの行事への参加や遠方からの面会者などには食事を一緒にしていただく。また、遠方から帰られたご家族様と一緒に外泊をされたりと、馴染みの関係が途切れないよう支援している。  (外部評価) 職員は利用者の生活歴の把握に努めている。利用者や馴染みの方との関係が途切れないよう、家族に協力をお願いすることもある。以前勤めていた職員が事業所を訪れるなど、様々な方に積極的に関わりを持ってもらえるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が仲介となり、交流の機会を設け、いろいろな会話の中から、子供の頃の話や終戦時の話など井戸端会議のような形式をとり、会話は楽しいものと皆様が感じ、自然に関わり、「共に暮す」暮らしを意識しながら協力し合えるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、行事などのパンフレットを送付してお誘いしたり、関係機関の担当ケアマネを通じて情報をお聞きするなど経過の把握に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の介護記録には、ご本人が発言した言葉をそのまま記入し、それに対し職員がどう返答し、ご利用者がどう納得されたのかなど、何気ない日常会話の中に心の変化、体の変化をつかむ材料としている。 (外部評価) 買い物や入浴時等に、積極的に会話に努め利用者の思いや意向を把握している。思いや意向が伝えづらい利用者に対しては、積極的に側に寄り添い意思の疎通を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前面接や入所後のアセスメントを行ない、ご本人との面談や日常会話での情報収集、ご家族にはアンケート用紙を渡しアセスメント用紙まとめ、サービス利用に活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日課表や個人記録を詳しく記入することにより、毎日の現状を把握できるよう努めている。口頭で申し送りを行い、日誌の申し送り欄に特記している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご利用者の状態の変化や職員が気づいた点など月初めに各ユニットでケアカンファレンスを行ない、話し合いで意見やアイデアを出し合う場を設けている。ご家族には面会時にご意見をいただいたり、必要時には面談などを行っている。  (外部評価) 利用者や家族の思いや支援の中での気づきなどを介護計画に盛り込み、職員間で話し合って作成している。3か月に1度見直しを行い、より良いサービスが提供できるよう取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一日ご利用者がされたことをただ単に記録するのではなく、ご利用者の言葉・会話なども含めながら「気づき」を記録するよう心がけている。出勤以外の記録にも必ず目を通すことで情報を共有しそれをよりよい介護につなげる努力をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 新しい情報を取り入れながら、柔軟な支援やサービスの多機能化「受診介助、買い物、外出等」に取り組み、その時々にも生まれるニーズに対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 大きな行事（夕涼み会・避難訓練・地域の文化祭など）に地域の方々の協力をいただき、グループホームを知らない方にも理解していただく機会を作っている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医との連携を行ない、ご本人やご家族の希 望も取りいれ、ご家族にも受診協力していただきなが ら、ご本人がよりよい医療を継続して受けられるよう 支援している。必要時には施設からの情報提供や薬の 受けとり、受診協力も柔軟に対応している。</p> <p>(外部評価) 利用者それぞれにかかりつけ医がおり、それぞれの主 治医と連携が取れている。基本的に通院介助は家族が 行っているが、家族の都合がつかない時は職員が同行 している。受診結果については家族と共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員から日々の気づきや申し送りにて看護師への 相談もあり、医療機関へつなげるきっかけとなってい る。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) ご利用者が入院の際には、ご利用者の状態やご家族の 状態を伝え、情報提供書などをお渡ししている。日々 の受診の際にも病院関係者との情報交換なども行な い、関係作りに努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ご利用者の状況を見ながら、重度化した場合などの対 応についてご家族と相談できる体制つくっている。ご 家族の希望を中心に、施設でのケアの限界と医療体制 なども十分説明し、職員も方針を共有しながらチーム としての思いをひとつにし、安心して取り組めるよう 話し合い支援ができるようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の家族には事業所のできることを、できないこと を十分に説明した上で支援を行っている。食事が摂取 できなくなった場合を一つの基準として、家族と協議 した上で医療機関等と連携をとるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを整備し、消防署の指導のもと、地域の方を交え、勉強会などを行い日々訓練している。今後も専門的な講習を受けるなどして、実践力を身につけていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回6月・11月に日勤・夜勤帯想定で防火訓練も実施している。地域の区長（自主防災組織のメンバー）・民生委員・婦人会・消防団の方、近隣住民にも参加していただき、地域との協力体制を確認している。運営推進会議などでも地域の防災マップなどをいただき、議題にあげて話し合っている。 (外部評価) 事業所が地域の避難場所になっており、地域との連携を意識した訓練を実施予定である。米・塩・水等の備蓄があり、簡易トイレについても準備がされている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう「言葉づかい」に気をつけ、コミュニケーションをとっている。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。 (外部評価) 利用者は人生の大先輩であるということを常に心がけ、声かけや接し方に配慮している。個人情報使用同意書を作成し、個人情報が適切に管理できるよう取り組んでいる。使用する際には十分な説明を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者に事前に声をかけ、ご希望をお聞きしたり、体調面に配慮したりし、自己決定を尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や生活リズムを大切にしながら、ご利用者のペースに合わせて、声かけし、したいことがあれば取り入れ、認知症などで自己決定が難しい場合は職員の方で提案するなどし、日々ゆったりと過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 清潔感を保ち、その人その人の応じたおしゃれができよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の能力に合わせ、負担にならないよう配慮しながら食事の準備や片付け、台拭きなど、職員と一緒に、手伝っていただき、お手伝いしていただいている。また、好みを聞き献立を一緒に考え、会話を楽しみながら食事をしている。  (外部評価) 利用者の要望を聞きながら、献立をたてている。季節の食材を取り入れるなど、利用者が季節感を感じられるような工夫がされている。利用者の誕生日にはケーキを作る等楽しく食事ができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は一日を通じてバランスよく取れているか食事摂取量、水分摂取量は必ず記録に残し、水分量は、午前・午後・食事中・入浴後などできるだけ多く摂取できるように配慮している。また毎月、体重測定を行い病気予防に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員が見守りしながら、毎食後、フロアーの洗面所にて口腔ケアを実施している。きれいに磨けているかどうか、声かけしながら見守り、清潔を保っている。義歯は夜間ポリドントにつけ洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄は個人個人の精神面を配慮し、いつもトイレでの排泄を心がけて援助している。失敗した時には、自尊心を傷つけないよう声かけや対応を心がけ支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握した上でトイレ誘導や排泄ケアを行っている。夜間については、尿パッドを使用する等、利用者の状態や状況に応じてケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事（野菜類）や水分を十分に摂取していただけるよう心がけている。体操や歩行訓練等も朝・夕行なっている。排便の確認がとりにくい面があり、時間的に長い場合はご本人にその都度確認している。ご本人の申告もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日曜日以外は毎日入浴している。ご利用者に相談しながら、行事などの都合により入浴時間が変更になる場合もあるが、お一人、お一人がゆったり気持ちよく入浴できるよう配慮している。ご本人の希望などもお聞きしている。	
			(外部評価) 2日に1回入浴を行っている。季節や利用者の状況に応じて、入浴回数を検討している。入浴の苦手な利用者については、家族に協力を依頼するなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や習慣などご利用者のリズムに合わせて各自自由に休める環境作りに努力している。ご利用者の中にも早く入眠される方もおり、体調に合わせて居室に誘導し休息を促せるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 病院からいただく処方箋はファイリングし、個人カルテには誰が見てもわかるように細かく記入している。変化がある時は申し送りを必ずしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴、能力に応じて負担にならないよう家事などの役割を担ってもらっている。テレビ・音楽鑑賞・手芸・工作・コーヒータイムを取り入れ、気分転換や充実した生活が送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご利用者の希望に応じて買い物や近くの畑へ草引きや収穫と一緒に掛かけたり、地域行事や季節に合わせた外出もしている。家族との外出・外泊もできるよう柔軟に対応している。	
			(外部評価) 隣接するデイサービスに同行し、吉海町のばら祭りに行く等、機会を見つけて外出支援を行っている。さつまいもの収穫祭の際には、収穫後に利用者と調理し屋外で食事をして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者やご家族の希望を聞き認知症の状態により金銭を所持できる環境である。お金を持つことの大切さを職員が理解した上で個別に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやりとりは自由にできるよう支援しており、家族等からの電話を取り次いだり、ご利用の誕生日や、何かの記念日にご家族よりお花や衣類を贈っていただいた時にはお礼の電話をしていただくよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 掲示板にご利用者で作った作品を季節感を出しながら掲示している。玄関を入るとトイレが一番に目に入る為、ご利用者、面会者が不快にならないようにカーテンをつけ見えないよに、常に清潔を保てるような環境になるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) フロアは高い天窓から日光が入り、明るく気持ちの良い空間となっている。キッチンからフロアが一望でき、利用者の状況を常に把握することができる。利用者の書道の作品を展示するなど工夫がされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 一人になりたいときや、面会などの際には居室に自由に行き来できるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 写真や作品などを居室に飾り、落ち着く空間づくりに努めている。昔使っていた机、こたつなども持ち込まれている方もいる。</p> <p>(外部評価) 洗面台やダンス、ベッドが備え付けられており利用者は自由に使用している。利用者の使い慣れたものを自由に持ち込み、居心地よく過ごしやすい空間づくりがされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ドアにご利用者の名前や花の写真を表示してわかりやすくしている。食事のときの席も固定化しており、自分の場所を確立し、認知症によるトラブルの軽減に努めている。ユニット内の掲示板にはその日の担当を決めできることは一緒に行っていたいっている。</p>	